

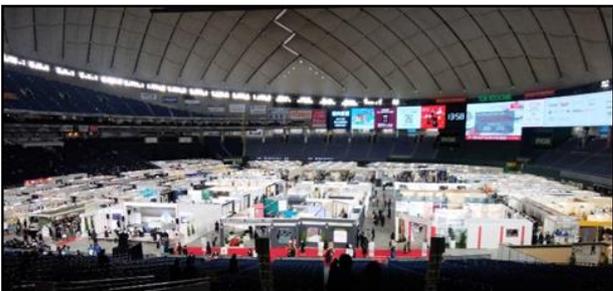
会派視察・研修報告書

会派名 令和クラブ

代表者名 古庄 修一

1 日 ち	令和5年 1月27日(金)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	テーブルウェア・フェスティバル2023～暮らしを彩る器展～ 主催：テーブルウェア・フェスティバル実行委員会 会場：東京ドーム
3 参 加 者	古庄修一、石田浩司
4 調査・研修の テーマ	地元的美濃焼展示の現状について
5 主 な 内 容	例年開催される展示会について、現状把握を行い、美濃焼産業の発展を考える。
6 所感、提言事項、 課題等	<p>【議員氏名】 古庄修一</p> <p>例年開催される展示会であるが、コロナ禍において2年間は開催されず、今回ようやく開催に至った。</p> <p>毎回25万人の入場者数という規模からすると各ブースも規模が小さく感じられたが、議会としても、美濃焼を使おう条例に基づき支援の手を緩めてはならないと感じた。</p> <p>多治見、土岐、瑞浪、それぞれが各ブースを使って、商談が行われていた。ある業者さんが、セラミックバレー構想があるのなら、三市が一体になった展示が必要ではないかと投げかけてくれたが、これは貴重な意見だと思う。今後はこの三市の市長が取りまとめを行い、一致団結した美濃焼の発展を大いに期待したい。</p>

<p>6 所感、提言事項、 課題等</p>	<p>【議員氏名】石田浩司</p> <p>第30回を迎えるテーブルウェアフェスティバルは、コロナウイルス感染症の影響からか全体的にブースの数が少なく感じられた。そんな中でも特に女性の来場者は多く活気があり、美濃焼多治見のブースも大いににぎわっていた。また特別企画展やスペシャルステージで行われるトークショーなど人を引き付ける企画で会場は盛り上がりを見せていた。</p> <p>多治見は美濃焼のまちであり、セラミックバレー構想の下で集まる各自治体が連携し、様々な展開を進めることで美濃焼の価値や認知度が上がっていくと感じた。</p>
---------------------------	---

<p>7 写真等 ※視察の場合は必須、 研修の場合は任意</p>		 
--	--	--

※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。